九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 川路柳虹参考文献目録稿

中原，豊
長崎大学教育学部講師

https://doi.org/10.15017/10433

出版情報：文獻探究. 20, pp.1-8, 1987-09-26. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

# 川路柳虹参考文献目録稿

中原　豊

## 凡　例

本目録は、明治40年10月から昭和62年３月の間に雑誌・紀要・新聞・単行書に掲載された川路柳虹に関する文献を採録している。ただし、週刊誌・写真誌、対象を詩歌に限定しない辞典・事典・文学史書等に掲載されたものは含めなかった。

記載は、発表年月順に、単行書に掲載のものは筆者名、題名、所載単行書名、発行所、発行月の順に、その他のものは筆者名、題名、所載誌（紙）名、発行月の順に為されている。題名は本文に依り、特集の表題は誌名の右に<>で示した。検索が煩雑と思われるものは適宜ページ数等を補った。再録誌（書）は→で示した。

筆者名の左に*マークが附されている文献は稿者が現在未確認のものであり、別項にその典拠を示した。

調査の不行届きにより多くの遺漏・誤りを残していることと思う。今後の御教示を仰ぎたい。

## 目　録

明治４０年（１９０７）

| | |
|---|---|
| 世詩香 | 言文一致の詩（詩人 10月） |
| 蛙鳴 | 新刊一新体詩界（帝国文学 10月） |
| 蛙鳴 | 新刊一新体詩界（帝国文学 11月） |

明治４１年（１９０８）

| | |
|---|---|
| 服部嘉香 | 口語体の詩（読売新聞 5月4日 第6面） |
| 服部嘉香 | 口語詩の出発点（文庫 8月） |
| 無署名 | 彙報<口語詩問題>（早稲田文学 10月） |
| 服部嘉香 | 詩壇の主観的権威（早稲田文学 9,11月） |
| 蒲原有明 | 過渡期の詩壇（新潮 12月） |
| 三島霜川 | 詩論、詩作（同上） |

明治４２年（１９０９）

| | |
|---|---|
| 相馬御風 | 詩界革新の第一年（読売新聞 1月1日 第9面） |
| 服部嘉香 | 泡鳴と御風（『文芸百科全書』 早稲田文学社 12月 P.723） |

明治４３年（１９１０）

| | |
|---|---|
| 相馬御風 | 五月の詩界（早稲田文学 6月） |
| 服部嘉香 | 批評と感想（読売新聞 10月23日 第5面） |
| 森川葵村 | 『路傍の花』を読む（創作 11月） |
| 相馬御風 | 詩壇雑感（早稲田文学 12月） |

服部嘉香　　詩壇一年の収穫(新潮 12月)

大正１年(１９１２)

*　　十月の創作「詩」一川路柳虹氏の「あけがたの雨」(劇と詩 11月)＊１

大正２年(１９１３)

服部嘉香　　詩壇の現状を論ずる書(現代 5月)

大正３年(１９１４)

三木露風　　『かなたの空』を読んで(未来 6月→『露風詩話』 白日社 大４．９
→『三木露風全集』第２巻 日本図書センター 昭48．7 P.36)

白鳥省吾　　『かなたの空』を読む(詩歌 6月)

美川康　　近刊三詩集を評す(創造 7月)

三木露風　　「かなたの空」の詩(処女 7，8月)

大正４年(１９１５)

白鳥省吾　　最近の詩壇(創造 4月)

大正６年(１９１７)

福士幸次郎　　現今詩壇に対する私見(文章世界 3月)

太陽の子　　詩壇月評(詩歌 4月)

福士幸次郎　　川路君に答ふ[註1](詩歌 6月)

福士幸次郎　　再び川路君に答ふ[註2](詩歌 7月)

福士太陽の子　興味ある詩壇の論争(新潮 10月)

青木純一　　詩壇一年間の回顧(新潮 12月)

大正７年(１９１８)

*ＫＭ生　　文士の印象(１) ― 江馬、前田、川路の三氏(新進文壇 11月)＊２

大正１０年(１９２１)

三浦十八公　　川路柳虹氏の態度(新潮 5月)

*福田正夫　　川路柳虹詩集を読む(新潮 7月)＊３

大正１１年(１９２２)

平戸廉吉　　「曙の声」を読んで〈『曙の声』の批評〉(炬火 3月)

萩原恭次郎　　寸語(同上)

百田宗治　　「曙の声」と「富田砕花詩集」(日本詩人 3月)

*蒲原有明　　自註(『有明詩集』 アルス 6月)＊４

河井酔茗　　日本詩壇発達の径路(早稲田文学 7月)

*堀口大学　　尺牘一曙の声(炬火 7月)＊５

大正１２年(１９２３)

橋爪健　　川路柳虹論一詩集「歩む人」に依る(詩聖 2月)

ＲＳＴ　　川路柳虹氏を訪ふ(名家訪問記)(文章倶楽部 9月)

大正１３年(１９２４)

白鳥省吾　　自由詩運動の前後(日本詩人 2月→後出『現代詩の研究』)

福井久蔵　　川路柳虹(『日本新詩史』 大阪立川文明堂 7月 P.267)

白鳥省吾　　川路柳虹の詩(『現代詩の研究』 新潮社 8月 P.264)

河井酔茗　　よき理解者(日本詩人〈特集 詩人の印象その三川路柳虹氏〉10月)

野口米次郎　川路柳虹論(同上)
広川松五郎　川路君の話(同上)
沢ゆき子　川路先生(同上)
鈴木信治　明るい叡知の人(同上)
福田正夫　川路君のこと(同上)
*　オブローモフと縁のある川路柳虹(『文壇出世物語』 新秋出版社)＊6

大正１４年(１９２５)
*田口正雄　趣味に生きる人川路柳虹氏(文芸の先駆 3月)＊7
中西悟堂　川路氏の新律格提唱に対して[註3](日本詩人 6月)
河井酔茗　『詩人』当時の回顧(日本詩人 11月)

大正１５年(１９２６)
白鳥省吾　「詩に於ける内在律の否定」を読む[註4](日本詩人 9月)

昭和２年(１９２７)
*都築益世　鸚鵡の歌ー川路柳虹氏著(炬火 1月)＊8
*正富汪洋 堀口大学 他　川路柳虹氏の印象(炬火 5月)＊9
日夏耿之介　自然主義的なる詩歌の発生(早稲田文学 6月)

昭和４年(１９２９)
日夏耿之介　口語詩の出生　口語派、自由詩　露風の若き老昏(『明治大正詩史』上下 東京創元社 2,11月→増補改訂版 昭23.12 中 P.231,279 下 P.102)
北原白秋　『明治大正詩史概観』
(『現代日本文学全集37現代日本詩集現代日本漢詩集』 改造社 4月 →改造文庫 昭8.12→『白秋全集』第21巻 岩波書店 昭61.5 P.136)
生田春月　白秋・露風・柳虹三氏(『現代日本詩人全集』月報第1号 新潮社 7月)
福士幸次郎　白秋露風時代と柳虹氏の位置(同上)
日夏耿之介　川路氏に答ふ ― 作家の書いた文学史の真実性[註5]
(読売新聞 11月24日 第4面)

昭和５年(１９３０)
渋谷栄一　川路柳虹論(愛誦 1～5月)
倉橋弥一他　川路柳虹の印象(愛誦 2月)
佐藤清他　川路柳虹の印象(愛誦 3月)
神原泰　川路柳虹氏への希望(詩神 11月)

昭和６年(１９３１)
無署名　明治大正詩人小伝(『明治大正文学全集』第36巻 春陽堂 P.549)

昭和７年(１９３２)
倉橋弥一　川路柳虹氏に就て(詩人時代 4月)

昭和８年(１９３３)
福士幸次郎　自由詩の発達とその研究(『日本現代詩研究』 巧人社 5月 P.135)

昭和９年(１９３４)
ＫＹ生　川路柳虹氏に詩を訊く(蠟人形 4月)

山宮允　「未来」と未来社の人々(『日本文学講座』第9巻 改造社 10月
→『書物と著者』 吾妻書房 昭24.6)
山宮允　新詩の発生及び展開(『明治大正詩書綜覧』本文篇 啓成社 12月)
日夏耿之介　象徴詩及び自由詩の展開(同上)

昭和10年(1935)

*横川茂一　川路柳虹氏の新韻文論序説について(日本詩壇 2月)*10
*ﾘｵﾈﾛ･ﾌｲｳﾐ　川路柳虹論(川路柳虹『明るい風』付録 村上信義堂 7月)*11
村野四郎　詩の園丁ー川路柳虹氏「詩学」に沿ふて(蠟人形 9月)

昭和11年(1936)

*倉橋弥一　「明るい風」読後(詩作 1月)*12
*山崎泰雄　「明るい風」と柳虹氏(同上)*13
*都築益世　川路柳虹氏に就て(日本詩壇 1月)*14
豊島乙彦　川路柳虹論(詩人 3月)
*河井酔茗　詩社の憶ひ出(詩作 10月)*15

昭和12年(1937)

西尾洋　川路柳虹氏との一時間(蠟人形 5月)
OGPU　川路柳虹への公開状(新領土 10月)
河井酔茗　『酔茗詩話』(人文書院 10月 P.118)
NKVD　再び川路柳虹氏に与ふ[注6](新領土 12月)

昭和16年(1941)

吉田精一　詩歌･俳句における自然主義(『明治大正文学史』 修学館 3月 P.158)

昭和25年(1950)

神保光太郎　解説(『現代日本文学選集』第11巻 細川書店 5月 P.272)
矢野峰人　解説(『日本現代詩大系』第4巻 河出書房 10月
→新版 河出書房新社 昭49.12 P.469)
無署名　川路柳虹　路傍の花(『現代詩辞典』 飯塚書店 10月 P.72,259)

昭和26年(1951)

村野四郎　川路柳虹篇(『現代詩鑑賞』大正篇 第二書房 3月 P.71)
笹澤美明　現代詩鑑賞第3回(詩学 8月)
岡一男　『近代詩歌・展望と評釈』(学燈社 8月 P.158)
村野四郎　『世界現代詩辞典』(創元社 11月 P.107,112,192,486,523)

昭和29年(1954)

村野四郎　日本現代詩の歩み　一人の詩人が歩いた道
(『現代詩読本』 河出新書 2月 P.97,184)
能村潔　柳虹的世界の点描
(山宮允教授華甲記念文集編集委員会編『近代詩の史的展望』
河出書房 3月)
無署名　本文概要　解説(村野四郎･木下常太郎編著『現代の詩論』
宝文館 11月 P.3,35)

昭和30年(1955)

長谷川泉　　口語詩における聴覚性の問題(言語生活　4月)
伊藤信吉　　解説(『現代日本詩人大系』第3巻 東京創元社　8月 P.400)
昭和３３年(１９５８)
村野四郎　　現代詩小史(『現代日本文学全集』第89巻 筑摩書房　2月 P.430)
遠地輝武　　柳虹の「塵溜」その他(『現代日本詩史』 昭森社　2月 P.108)
村野四郎　　川路柳虹のこと(詩学　4月)
昭和３４年(１９５９)
*村野四郎　　川路柳虹の死(読書人　4月27日)＊16
服部嘉香　　口語詩発生の頃 ― 川路柳虹追悼の心を以て ―
(詩界〈川路柳虹氏追悼特集〉 6月)
山宮允　　柳虹詩伯を悼む(同上)
森川葵村　　誄詩(同上)
青山郊汀　　川路柳虹の死(同上)
青木徹　　詩人百科辞典(解釈と鑑賞　7月)
野田宇太郎　　解説　日本詩史Ⅱ(『世界名詩集大成』第17巻 平凡社　12月 P.1,423)
昭和３５年(１９６０)
石丸久　　川路柳虹(二)
(『人と作品 現代文学講座』大正篇Ⅰ 明治書院　12月 P.155)
昭和３６年(１９６１)
石丸久　　川路柳虹(一)
(『人と作品 現代文学講座』明治篇Ⅳ 明治書院　5月 P.278)
人見円吉　　口語詩の史的研究(一〇)(学苑　9月
→『口語詩の史的研究』 桜楓社 昭50.3 P.298)
白鳥省吾　　口語自由詩への道(国文学　12月)
天彦五男編　　川路柳虹略年譜(原形〈川路柳虹追悼号〉第16号　12月)
深尾須磨子　　川路柳虹先生の思い出(同上)
前田鐵之助　　川路柳虹氏を偲ぶ(同上)
山崎泰雄　　大正期の柳虹先生(同上)
金子光晴　　川路柳虹さんのこと(同上)
青山郊灯　　川路柳虹の死(同上)
今岡弘　　川路先生を想う(同上)
能村潔　　「詩篇時代」の頃(同上)
村野四郎　　川路先生と現代詩(同上)
都築益世　　川路先生と童謡について(同上)
安藤一郎　　温和な巨匠の思い出(同上)
原一郎　　川路さんの思い出(同上)
深沢幸雄　　川路柳虹先生(同上)
金子秀夫　　晩年の川路先生との出逢い(同上)
天彦五男　　没して後の弟子(同上)
昭和３７年(１９６２)

伊藤信吉　近代詩の歴史的外観(『近代文学鑑賞講座』第23巻 近代詩
角川書店 4月 P.371)
横井博　印象主義と日本の近代詩
(『詩歌における印象主義』 東宝書房 4月 P.237)
沢ゆき　若く四十年を(原形 〈川路柳虹特集〉 第18号 5月)
古川清彦　柳虹詩の一断面(同上)
天彦五男　柳虹評伝(Ⅰ)〈アヴァンギャルド精神と柳虹〉(京浜詩[注8] 第18号 12月)
古川清彦　川路柳虹(『現代日本文学講座』(詩) 三省堂 12月 P.70)

昭和３８年(１９６３)

人見円吉　口語詩の成立とその過程(一八)(学苑 1月
→前出『口語詩の史的研究』 P.598)
天彦五男　柳虹評伝(２)〈アヴァンギャルド精神〉(京浜詩 第19号 2月)
服部嘉香　『口語詩小史』(昭森社 12月 P.30)

昭和４０年(１９６５)

小海永二　鑑賞ノート(小海永二編『日本の名詩』大和書房 4月 P.70,267,285,322)
西脇順三郎　大詩人、川路柳虹 ― 二冊の詩集に触れて(現代詩手帖 7月)
→改題「川路柳虹」(『西脇順三郎全集』第５巻 昭46.11 P.592)

昭和４１年(１９６６)

伊藤信吉　変革点の詩人たち(上)・(中)
― 形式革命と革命芸術のかかわりについて ―(文学 5,6月)
能村潔　柳虹の世界(詩界 9月)
伊藤信吉　川路柳虹(『鑑賞現代詩』Ⅱ 筑摩書房 10月 P.270)

昭和４２年(１９６７)

島本久恵　若い一群 ― 白秋、露風、柳虹、その出発
(『明治詩人伝』 筑摩書房 12月 P.374)

昭和４３年(１９６８)

古川清彦　川路柳虹『路傍の花』(本の手帖 12月
→『近代詩人群像 ― 鷗外・清白・朔太郎ら』 教育出版センター
昭56.3 P.251)

昭和４４年(１９６９)

村野四郎　川路柳虹・人と作品 解説
(『日本詩人全集』第12巻 新潮社 1月 P.103,173)
天彦五男　読書案内(同上)
村野四郎　川路柳虹(『現代詩鑑賞講座』第４巻 角川書店 6月 P.5)
服部嘉香　不評の口語詩人川路柳虹(同月報)
三浦仁　川路柳虹(『近代詩鑑賞辞典』 東京堂出版 9月)
安西均　大正詩史(『現代詩鑑賞講座』第12巻 角川書店 10月 P.154)

昭和４５年(１９７０)

角田敏郎　近代詩論史稿 ― 韻律論の系譜 ―(学大国文 3月)
村野四郎　川路柳虹(『現代名詩の鑑賞』 愛育出版 7月 P.45)

関良一　　文語詩と口語詩(国文学　9月
→『近代詩の形態と成立』 教育出版センター 昭51.6 P.167)

能村潔　　「生」に問ひつづけた詩人(詩界　9月)

天彦五男　　柳虹と現代詩(同上)

昭和４７年(１９７２)

乙骨明夫
家森長治郎
古川清彦　　口語自由詩論その他(『日本近代詩論の研究』 角川書店　3月 P.727)

安部宙之介
古川清彦　　民衆詩派詩論その他(同上)

乙骨明夫　　川路柳虹論 ― 口語自由詩を書きはじめた時期の詩について ―
(国語と国文学　5月)

笹淵友一　　解説(『日本近代文学大系』第53巻 近代詩集Ⅰ 角川書店 11月 P.7)

昭和４８年(１９７３)

乙骨明夫　　自然主義文学と口語自由詩の成立
(『講座日本現代詩史』第２巻 大正期 右文書院 12月 P.45)

昭和５０年(１９７５)

矢野峰人　　解題(『明治文学全集』第61巻 明治詩人集(二) 筑摩書房　8月 P.419)

昭和５１年(１９７６)

角田敏郎　　川路柳虹の詩論 ― 口語自由詩論における位置 ―(学大国文　2月)

昭和５３年(１９７８)

中村稔　　口語詩の成立(『シンポジウム日本文学20現代詩』 学生社 12月 P.10)

昭和５４年(１９７９)

内海康也　　川路柳虹(『現代詩の解釈と鑑賞事典』 旺文社　3月 P.210)

昭和５６年(１９８１)

御木白日　　自由詩における等時性のリズム ― 例を川路柳虹にとって ―
(国文学踏査(大正大学国文学会編)　8月)

昭和５７年(１９８２)

田中清光　　川路柳虹(小海永二編『精選日本近代詩全集』 ぎょうせい　9月 P.120)

昭和６０年(１９８５)

野山嘉正　　川路柳虹の詩と詩論(国文学論集(山梨大学国文学研究室)　3月)

昭和６１年(１９８６)

杉本邦子　　川路柳虹(『日本現代詩辞典』 桜楓社　2月 P.123)

## 未見文献の典拠

1、　鈴木美枝子「大正詩歌集覧」(学苑　昭53.2)
2、　三浦仁編『日本近代詩作品年表』大正篇(秋山書店 昭60.2　以下『大正篇』と略記)
3、　『大正篇』
4、　福士幸次郎「自由詩の発達とその研究」(前出)
5、　『大正篇』
6、　法政大学文学部史学研究室『日本人物文献目録』(平凡社 昭49.6)
7、　『大正篇』
8、　三浦仁編『日本近代詩作品年表』昭和篇(秋山書店 昭61.2　以下『昭和篇』と略記)
9、　服部嘉香『口語詩小史』(前出)・『昭和篇』
10、　『昭和篇』
11、　『口語詩小史』
12、　『昭和篇』
13、　『昭和篇』
14、　『昭和篇』
15、　『口語詩小史』
16、　『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』人名篇(紀伊國屋書店 昭60.6)

## 註

1、　川路柳虹「福士君に申す」(詩歌 大6.5)参照。
2、　川路柳虹「再び福士君に申す」(詩歌 大6.6)参照。
3、　川路柳虹「新律格の提唱」(日本詩人 大14.3)参照。
4、　川路柳虹「詩に於ける内在律の否定ー新律格再論の序言」(日本詩人 大14.8)参照。
5、　川路柳虹「日夏耿之介氏に与ふー明治、大正詩史の迷妄をたゞすー」
(読売新聞 昭4.11.24 第4面)参照。
6、　川路柳虹「春山行夫に与ふ」(詩作 昭12.11)参照。
7、　創刊、昭和32年12月。終刊、昭和41年12月10日。通刊、30号。変形版。編集者、天彦五男(13号より)。発行所、原形社。
8、　創刊、昭和34年11月14日。終刊、昭和46年8月14日。通刊、107号。A5版。編集者、竹内多三郎。発行所、京浜詩の会。

附記　本稿の制作にあたり天彦五男氏より資料提供・御教示を受けた。記して謝意を表したい。

――長崎大学教育学部講師 ―